「このとりのゆりかご」の運用状況の検証に関する報告（NO. 42）

（検証対象期間：令和2年4月1日～令和2年9月30日）

平成19年5月10日に慈恵病院が設置した「このとりのゆりかご（以下、「ゆりかご」という。）」の令和2年度上半期における運用状況の検証結果について、次のとおり報告する。

1 違法性の検討について

上記対象期間の「ゆりかご」の運用体制に刑法上の「明らかな違法性」は認められない。

なお、子どもの権利を侵害しないように、今後も本部会において個別の運用状況を継続的に検討する必要がある。

2 許可時の留意事項の遵守状況について

（1）子どもの安全確保

対象期間中、特に問題の発生は確認されていない。

① 設備の保守点検は、適正に行われていることが「保守点検表」に基づき確認された。

② 病院及び熊本市関係職員による会議は、適切に開催され運用に関する各種連絡・調整が図られている。

（2）相談機能の強化

「ゆりかご」はできるだけ使われないことが望ましく、事前の相談で支援につなげることが本来の目的である。慈恵病院が設置された「SOS赤ちゃんとお母さんの相談窓口」には、4月～9月に合計3,844件の相談が寄せられている。また、毎月カンファレンス会議を開催し、相談員の情報の共有化を図るなど、病院としての相談業務に取り組まれている。

（3）公的相談機関等との連携

「ゆりかご」の運用に関する公的相談機関等との連携については、警察への通報、児童相談所・市への通告及び情報公開のあり方も含め、適切に対応されている。

3 現時点での検証評価

以上のとおり、「ゆりかご」の運用体制に刑法上の「明らかな違法性」は認められず、また、許可時に付した上記記載の3つの留意事項についても遵守されている。今後も引き続き「ゆりかご」の運用状況の検証を継続する必要がある。

4 第57回熊本市要保護児童対策地域協議会「こうのとりのゆりかご」専門部会
(令和2年9月1日開催)で述べられた主な意見

- ・ 預け入れ時に得た情報については、子どもとその保護者をつなぐ貴重な情報である。子どもの命及び子どもの権利を守るうえで、慈恵病院は情報を提供し、その情報は保全される必要がある。
- ・ ゆりかごの扉の中に入れなくても良いという使われ方が広がってしまうことを懸念している。遺棄と思われるような危険な預け入れは、子どもの権利や福祉について問題がある。
- ・ ゆりかごは、適切に扉の中に預け入れられるため安全であると認識されてきた。しかし、ゆりかごの扉の中に入れない預け入れは、保護責任者遺棄とも評価されうる危険な状態であり、そのことを社会全体が認識することが重要であるため、しっかり社会に伝えていく必要がある。
- ・ 慈恵病院の「こうのとりのゆりかご運用マニュアル」は、ゆりかごの扉の中に入れない預け入れを想定していない。今回の事例を踏まえ、万が一、ゆりかごの扉の中に入れない預け入れがあった場合の子どもの捜索方法、院内の連絡体制等についてマニュアルに明記いただきたい。
- ・ 預け入れ者に接触しないということは、親への必要なケアの機会をなくすことにつながる。慈恵病院は、預け入れ者に積極的に接触することが大事である。
- ・ ゆりかごを利用する方に複雑な事情があることは、これまでの検証からも認識している。そのことは、ゆりかごを利用する親へのケアが必要であることも意味している。

○第58回 熊本市要保護児童対策地域協議会「こうのとりのゆりかご」専門部会
・開催日時：令和2年11月27日（金）10：00～

（委員名簿）

氏名	役職	備考(分野)
山縣 文治	関西大学 人間健康学部教授	児童福祉
国宗 直子	弁護士	法律
上村 宏淵	熊本県養護協議会会長 (福)龍山学苑理事長	福祉施設
安部 計彦	西南学院大学 人間科学部社会福祉学科教授	児童福祉
岩井 正憲	熊本大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター講師	小児科
城野 匡	熊本学園大学 社会福祉学部教授	精神科